うろん紀行

人はなぜ小説を書くのだろう。
なぜ小説を読むのだろう。
決して同じ場所に
たどり着くことはできないのに。

〝平和島のブローティガン〟
わかしょ文庫による《小説を読む物語》

笙野頼子『タイムスリップ・コンビナート』を読みながら海芝浦へ向かい、後藤明生『挟み撃ち』の足跡をたどり、巨大スーパーCOSTCOの喧騒の中で大江健三郎『万延元年のフットボール』を読もうとする。著者は一見ふざけているようだ。しかし、実際彼女は不安に襲われながら読み訪ね、そして書く。本書はとても切実で危なっかしい《小説を読む物語》だ。うろんな物語を読み終えた時、読者もまたこの社会での生き方を模索しはじめているだろう。日常の生きづらさが綴られた自主制作エッセイ集『ランバダ』の著者がその硬質で端正な文体を余すことなく発揮した好評WEB連載を書籍化した商業出版第1作。

試し読み用 QR コード

［著者プロフィール］
わかしょ文庫（わかしょぶんこ）
作家。1991年北海道生まれ。

［本書で取り上げた作品と場所］

◎笙野頼子『タイムスリップ・コンビナート』〔海芝浦〕、◎永井荷風『墨東綺譚』〔東向島〕、◎古川日出男『ベルカ、吠えないのか？』〔犬吠〕、◎後藤明生『挟み撃ち』〔蕨、上野、亀戸、御茶ノ水〕、◎太宰治『富嶽百景』〔河口湖〕、◎高橋源一郎『さようなら、ギャングたち』〔金沢文庫〕、◎宮沢賢治『銀河鉄道の夜』〔馬喰町〕、◎尾崎翠『第七官界彷徨』〔池上〕、◎大江健三郎『万延元年のフットボール』〔産業道路〕、◎牧野信一『ゼーロン』〔高輪ゲートウェイ〕、◎ポール・オースター『ムーン・パレス』、ベン・ラーナー『10：04』、スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャッツビー』〔ニューヨーク〕、◎猫田道子『うわさのベーコン』、J. L. ボルヘス『バベルの図書館』、夏目漱石『夢十夜』〔？？？〕、◎小森健太郎『大相撲殺人事件』〔両国〕、◎藤子不二雄Ⓐ『まんが道』〔落合南長崎〕、◎トム・ジョーンズ『ロケットファイア・レッド』〔大井町〕他

◎八木書店から日販、トーハン、楽天BNほか取次を通じてすべての書店に出荷いたします（返品は汚破損のない場合に限り「了解者：友田」にて随時申し受けます）。出版社直取引（買切のみ、正味65% 送料当方負担）をご希望の場合はメールでお問い合わせください。

◎POP等もご用意します。取り上げた作品を集めたミニフェアやトークイベントの開催をご検討いただける書店様、ぜひご連絡ください。

装幀：コバヤシタケシ
装画：高田綾菜
校正：サワラギ校正部
印刷製本：藤原印刷株式会社

注文書デザイン：飯村大樹

キリトリ線

文芸書ご担当者様

注文書（一般書店用）

［ご注文先］代わりに読む人　FAX：03-6704-5148
Email：contact@kawariniyomuhito.com
Web：https://www.kawariniyomuhito.com

新刊	わかしょ文庫 著 **うろん紀行** 2021年8月中旬発売（8月3日頃取次搬入） 四六判／202頁／上製本 ¥2,200円+税 ISBN 978-4-9910743-3-2 C0093	冊	番線㊞
既刊	パリのガイドブックで東京の町を闊歩する 2　読めないガイドブック 新書判カラー／94頁／並製本／¥1,500円+税　ISBN 978-4-9910743-2-5 C0295	冊	
友田とん 著	パリのガイドブックで東京の町を闊歩する 1　まだ歩きださない 新書判カラー／48頁／並製本／¥700円+税　ISBN 978-4-9910743-1-8 C0295	冊	ご担当：　様